

令和4年度 上半期 大和商工会 小規模事業者景況調査報告書

1. 調査要領

(1) 調査対象

- ア 対象地区 大和商工会管内小規模事業者
イ 調査企業数 100 事業所
ウ 回答企業数 100 事業所
(回答率 100.0%)

(2) 調査対象期間

- 令和4年1月～令和4年6月
(調査時点 令和4年7月1日)

(3) 調査方法

- 職員による巡回または窓口によるヒアリング調査

(4) 調査対象と回答企業の構成

	調査対象		有効回答	
	企業数	構成比	企業数	構成比
製造業	12	12.0%	12	12.0%
建設業	31	31.0%	31	31.0%
卸・小売業	24	24.0%	24	24.0%
飲食・宿泊業	16	16.0%	16	16.0%
サービス業	17	17.0%	17	17.0%
合計	100	100.0%	100	100.0%

2. 地域内産業全体の景況概要

新型コロナが発生し売上と採算が大きく落ち込んだ年と比べて、全体として売上は横ばいである。現在はコロナに加えて、ロシアのウクライナ侵攻による物価上昇で先行きが見通せない現状である。

【後継者の状況】

製造業58.3%、建設業58.1%、卸・小売業70.8%、飲食・宿泊業87.5%、サービス業82.4%の事業所で後継者なしと回答

後継者 あり	30事業所	30.0%	(令和3年下半期：27.6%)
後継者 なし	70事業所	70.0%	(令和3年下半期：72.4%)

【売上高】

前年同期比は30.0%の事業所で減少。前期比は39.0%の事業所で減少。今後の見通しは19.0%の事業所で減少予測である。

前年同期比

増加	不変	減少
25	45	30

DI値 47.50

前期比

増加	不変	減少
18	43	39

DI値 39.50

今後の見通し

増加	不変	減少
32	49	19

DI値 56.50

【採算】

前年同期比は28.0%の事業所で悪化。前期比は33.0%の事業所で悪化。今後の見通しは19.0%の事業所で悪化予測である。

前年同期比

好転	不変	悪化
11	61	28

DI値 41.50

前期比

好転	不変	悪化
12	55	33

DI値 39.50

今後の見通し

好転	不変	悪化
21	60	19

DI値 51.00

【仕入単価】

前年同期比74.0%の事業所で上昇。前期比は74.0%の事業所で上昇。今後の見通しは80.0%の事業所で上昇予測である。

前年同期比

上昇	不変	低下
74	26	0

DI値 87.00

前期比

上昇	不変	低下
74	26	0

DI値 87.00

今後の見通し

上昇	不変	低下
80	20	0

DI値 90.00

【販売（客）単価】

前年同期比69.0%の事業所で不変。前期比は65.0%の事業所で不変。今後の見通しは61.0%の事業所で不変予測である。

前年同期比

上昇	不変	低下
26	69	5

DI値 60.50

前期比

上昇	不変	低下
28	65	7

DI値 60.50

今後の見通し

上昇	不変	低下
31	61	8

DI値 61.50

【資金繰り】

前年同期比13.0%の事業所で悪化。前期比は17.0%の事業所で悪化。今後の見通しは12.0%の事業所で悪化予測である。

前年同期比

好転	不変	悪化
3	84	13

DI値 45.00

前期比

好転	不変	悪化
3	80	17

DI値 43.00

今後の見通し

好転	不変	悪化
8	80	12

DI値 48.00

【雇用動向】

前年同期比19.0%の事業所で不足。前期比は19.0%の事業所で不足。今後の見通しは19.0%の事業所で不足予測である。

前年同期比

過剰	適正	不足
0	81	19

DI値 40.50

前期比

過剰	適正	不足
1	80	19

DI値 41.00

今後の見通し

過剰	適正	不足
2	79	19

DI値 41.50

【景況判断】

前年同期比30.0%の事業所で悪化。前期比は30.0%の事業所で悪化。今後の見通しは25.0%の事業所で悪化予測である。

前年同期比

好転	不変	悪化
13	57	30

DI値 41.50

前期比

好転	不変	悪化
13	57	30

DI値 41.50

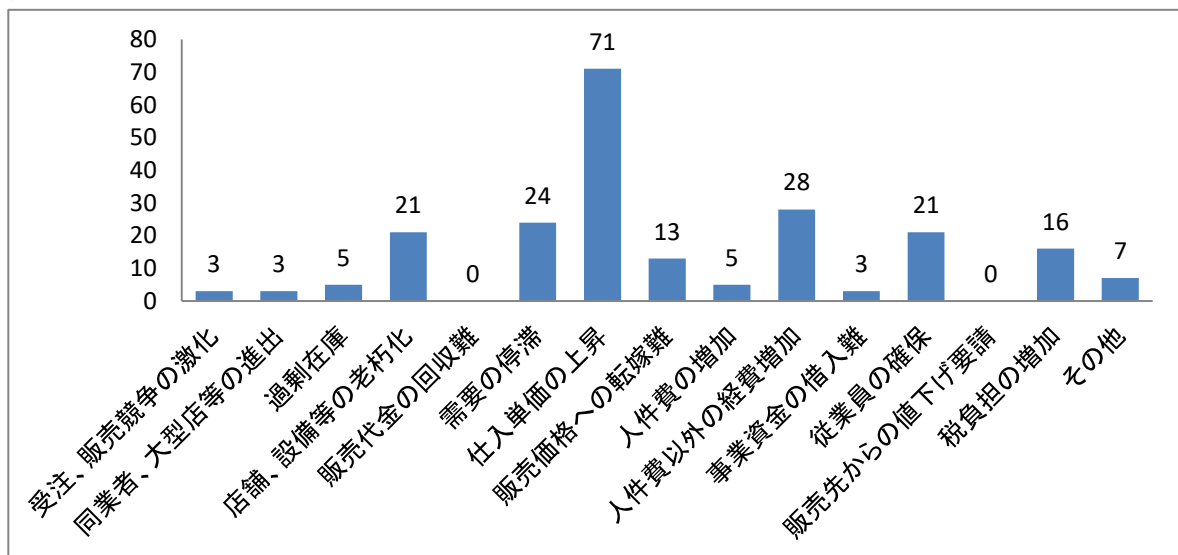
今後の見通し

好転	不変	悪化
19	56	25

DI値 47.00

【経営上の問題点】

1番目の問題点は「仕入単価の上昇」、2番目の問題点は「人件費以外の経費増加」、3番目の問題点は「需要の停滞」となっている。



3. 産業別景況概要

(1) 製造業

今期の製造業の景況は、「売上DI」前年同期比54.2、前期比50.0、今後の見通し62.5。「採算DI」前年同期比41.7、前期比41.7、今後の見通し62.5。「資金繰りDI」前年同期比50.0、前期比45.8、今後の見通し58.3であり、「景況判断DI」前年同期比54.2、前期比50.0、今後の見通し54.2としている。売上は前年同期比、前期比ほぼ横ばいであるが、今後の見通しでは増加を見込んでいる。労働力の不足感があるものの、仕入単価は上昇傾向にあり今後の見通しも上昇を予測しており販売単価に転嫁できない事業者もいる。経営上の問題点1位「仕入単価の上昇」2位「人件費以外の経費増加」3位「従業員の確保」となっている。

(2) 建設業

今期の建設業の景況は、「売上DI」前年同期比41.9、前期比27.4、今後の見通し51.6。「採算DI」前年同期比38.7、前期比33.9、今後の見通し45.1。「資金繰りDI」前年同期比48.4、前期比43.5、今後の見通し48.4であり、「景況判断DI」前年同期比38.7、前期比37.1、今後の見通し43.5としている。売上は前年同期比やや減少、前期比では季節的な要因もあり減少、今後の見通しはほぼ横ばいである。仕入単価は上昇傾向にあり、今後更に上昇を予測しているが、販売単価に転嫁できない事業者もいる。経営上の問題点1位は圧倒的に「仕入単価の上昇」2位「従業員の確保」3位「税負担の増加」となっている。

(3) 卸・小売業

今期の卸小売業の景況は、「売上DI」前年同期比49.7、前期比33.3、今後の見通し41.7。「採算DI」前年同期比37.5、前期比33.3、今後の見通し39.6。「資金繰りDI」前年同期比35.4、前期比35.4、今後の見通し43.8であり、「景況判断DI」前年同期比35.4、前期比35.4、今後の見通し31.3としている。売上は前年同期比ほぼ横ばい、前期比減少、今後の見通しではやや減少としている。仕入単価は上昇傾向であり、前年同期比・前期比とも販売単価に転嫁できない事業所も今後は転嫁せざるを得ない事業所が増えている。経営上の問題点1位は「仕入単価の上昇」2位「人件費以外の経費増加」3位「需要の停滞」となっている。

(4) 飲食・宿泊業

今期の飲食・宿泊業の景況は、「売上DI」前年同期比53.1、前期比53.1、今後の見通し81.3。「採算DI」前年同期比46.9、前期比46.9、今後の見通し71.9。「資金繰りDI」前年同期比46.9、前期比46.9、今後の見通し46.9であり、「景況判断DI」前年同期比50.0、前期比50.0、今後の見通し75.0としている。売上は前年同期比・前期比ほぼ横ばい、今後の見通しでは大きく増加を予測している。仕入単価は上昇傾向であり、今後更に上昇すると予測しているが、販売単価に転嫁しづらい状況が見える。経営上の問題点1位は圧倒的に「仕入単価の上昇」2位「販売価格への転嫁難」と「店舗、設備等の老朽化」となっている。

(5) サービス業

今期のサービス業の景況は、「売上DI」前年同期比47.1、前期比50.0、今後の見通し58.8。「採算DI」前年同期比47.1、前期比50.0、今後の見通し50.0。「資金繰りDI」前年同期比50.0、前期比47.1、今後の見通し47.1であり、「景況判断DI」前年同期比38.2、前期比44.1、今後の見通し44.1としている。売上は前年同期比・前期比ほぼ横ばい、今後の見通しは若干増加を予測している。仕入単価は上昇傾向であるが、販売単価は若干の増加である。経営上の問題点1位は「仕入単価の上昇」と「店舗、設備等の老朽化」3位「人件費以外の経費増加」となっている。

